

令和元年度自然保護官等研修Ⅲ実施要綱

環境省環境調査研修所

1. 目的

環境省入省4～5年目程度で、原則として自然環境行政の現場の最前線である自然保護官事務所勤務を既に経験した自然系技官の職員(他省庁からの配転者を含む。)が、内外の様々な分野の有識者や他の研修生との意見交換を通して、視野を広げ、現場の第一線で自然環境行政を担う者としての立場を再認識し、今後の自らの職務への取り組み方について改めて考えることで、自然保護官としての資質を高め、問題解決の糸口を掴む。併せて、全員合宿による研修生間の交流を通じて、相互の啓発及びネットワークの形成を図る。

2. 期間及び会場

(1) 期 間：令和元年11月5日(火)から11月8日(金)まで(4日間)

※期間中は受講者全員合宿制となります。

(2) 場 所：環境調査研修所 〒359-0042 埼玉県所沢市並木3-3
TEL 04(2994)9766

3. 教科内容 別紙のとおりとする。

4. 予定研修人員 30名

5. 研修を受ける資格

次の各号のいずれにも該当する者とする。

- (1) 環境省の職員で国立公園管理、野生生物保護の業務を担当している、又は担当しうる者
- (2) 研修受講に支障のない健康状態にある者
- (3) 大臣官房秘書課長の推薦を受けた者

6. 研修生の推薦

研修生を推薦する場合には、別紙様式による「被推薦者名簿」、「略歴書」、「行政事例」及び「事前課題(合意形成)」を添えて令和元年9月26日(木)までに必着するよう、環境調査研修所所長あて文書により通知すること。

7. 研修生の決定

環境調査研修所所長は、6の推薦に基づいて研修生を決定の上、大臣官房秘書課長にその旨を通知する。

8. 修了証書の交付

環境調査研修所所長は、所定の課程(原則として1割以上欠課した者を除く。)を受講した者に対して修了証書を交付する。

なお、受講の状態については、研修終了後、大臣官房秘書課長に通知する。

9. 経 費

(1) 往復に必要な経費

環境調査研修所から支給する。

(2) 滞在費

日額旅費を環境調査研修所から支給する。

*次の情報を環境調査研修所ホームページ(URL <http://neti.env.go.jp>)に掲載しておりますので御参照ください。

◎「研修受講ガイドブック」(研修受講に当たっての留意事項に関する情報を記載しております。)

○ 自然保護官等研修Ⅲ 教科内容

1. **基調講義—これからの自然環境行政の展望—(Ⅰと合同)** 1. 5時間
自然環境行政のこれからの展開や方向性について、自然環境局幹部から話を聞くことで、現場の第一線で自然環境行政を担う者としての立場を認識し、今後の自らの職務への取り組み方についてイメージする。
2. **地域における協働・合意形成のあり方** 9. 0時間
(1) **【講義、討議】合意形成に関する経験の共有** 3. 0時間
研修生各自が事前課題として作成した地域の合意形成に取り組んだ事例について共有し、複数の事例についての背景や問題点等に触れ、認識を深める。
- (2) **合意形成を考え、役立つ手法を身につける** 6. 0時間
1) **【講義】** ①なぜ合意形成はうまくいかないのか 1. 5時間
②環境保全活動のプロセスを評価する 1. 5時間
合意形成を学問として研究している有識者の論理的な導きにより、新たな気づきを得ることで、柔軟な発想への転換を図る。また、現場で活用できる技法について学び、知識を習得する。
- 2) **【討議、演習、総括】**
評価プロセスの実践(チェックリストの作成と実施)及び講師との質疑 3. 0時間
講義と研修生自身の経験に基づく問題提起、話題共有を土台とし、講師のアドバイスを受けながら討議や演習により理解を深め、スキルを身につけるとともに、カリキュラム2.の総括を行う。
3. **【講義、演習】ファシリテーション手法** 3. 0時間
自然保護官が業務を進める上で重要なスキルの一つであるファシリテーション手法について、演習を通じて学ぶ。
4. **【討議】事例研究「レンジャーの業務について」(Ⅰと合同)** 3. 0時間
現場の第一線で働くレンジャーとしての役割に対する認識を深め、業務に対する取り組み方について考え、意見を交換することで、相互に啓発し、今後の各自の現場での取り組みに活かす。特に、現場での経験年数が大きく異なるⅠとⅢの受講者が共に語り合うことで、Ⅰの受講者は、現場での業務に対するイメージを膨らませ、Ⅲの受講者は、自らの現場経験を踏まえた考えを経験の浅い者にわかりやすく伝えることで、自らの考えを整理する。
5. **【講義】合意形成のヒント** 1. 5時間
事業者等様々な主体と合意形成を図りながら物事を進めていくための実際のやり方について、国立公園等の過去の事例を参考に、実践的に学ぶ。
6. **【討議】「レンジャー研修全コースを通じての振り返り」** 1. 5時間
レンジャー研修の常設コースを全て受講した締めくくりとして、今後、研修で得た経験を元にどのように取り組むか、今後の各自の方向性を確認する。具体的には、事前に整理した各自の課題を元にグループ討議で意見交換をし、発表準備を行う。
7. **【発表、講義】目指すレンジャー像** 1. 5時間
前半では、6.でとりまとめた内容を発表し、全体討議、意見交換により理解を深め、助言者講評を受けて各自が今後の進むべき方向性を整理する。
後半では、研修の全行程を経て改めて自然系幹部から話を聞くことで、目指すべきレンジャー像を各自が明確に持ち、心構えや認識を高める。
8. **その他(開・閉講式、オリエンテーション、自主討議等)** 3. 0時間

合計 24. 0時間

(注)

- 都合により一部内容を変更することがあります。
- 開講式は10時より行う予定です。9時30分までに入所してください。
- 閉講式は15時45分に終了する予定ですが、若干遅れる場合もあります。
- 帰路の航空機や列車の時間等により最終日の講義や閉講式を欠席することは認めません。